

協働のまちづくりのルールブックをつくろう！



(仮称)廿日市市

まちづくり基本条例 かわら版

第7号

平成22年11月

(仮称)まちづくり基本条例検討市民委員会 第6回会議 「協働のまちづくりの仕組み ～ルール・活動支援策」 を考える

市民委員会における条例素案の検討は、第4回・第5回の「まちづくりの活動主体の関係や担う役割」を終え「協働のまちづくりの仕組み」に着手しました。また、今回はこれまでの吉和、宮島に続き、佐伯地域の会場で開催しました。午前中は、地域内をバスでまわり、重なり岩、津和野街道といった地域の宝や、まちを元気にする取り組みなどを見学しました。

茶人であり浅野藩家者であった上田宗箇が浅原に隠棲したときに茶をたてるのに使った名水
「岩船の水」



市民と行政の連携・交流の場である「さいき地域づくり拠点スペース」(支所3F)を見学

●佐伯地域ってどんなところ

廿日市市の中央部に位置し、広大な区域(194.83km²、市域の約4割)と、豊富な水と緑の自然環境に恵まれています。耕地は地域内を流れる小瀬川と玖島川の流域に開け、中心部から東側の友和地区に人口の過半数が集中しています。一方、中心部から離れた場所に点在する小さな集落では過疎化が進み、住民生活に影響を与えています。

こうした中、西のコミュニティ組織が地域を元気にするための活動に取り組んでいます。



岩倉温泉上流にある「重なり岩」
落ちそうで落ちない岩にあやかりたいと、受験時にお参りする人が急増中!?

条例素案の完成まで(平成22年度)

H22.6.19

基礎学習(市民委員会第1回会議)

H22.7.6

基礎学習(キックオフシンポジウム)

H22.7~12月

内容検討(市民委員会第2~7回会議)

冬頃

意見交換(市民ミーティング)

H23.1~3月

まとめ(市民委員会第8~10回会議)

H23.3月頃

最終報告(シンポジウム)

素案完成

市民委員会 第6回会議

とき: 11月20日(土)午後1時~4時40分

ところ: 廿日市市さいき文化センター

内容: 佐伯支所長あいさつ

ワークショップ

グループ別検討・発表・まとめ

講評



昼食は、地域の祝い事に出される豆ご飯とアワビ茸のおむすびが入った**街道弁当**と、旬の地元食材をふんだんに使った**さいき汁**をいただきました。

さいき汁を作るときにご協力いただいた地元の食生活改善推進員の皆さん、ありがとうございました。

●佐伯支所長あいさつ

佐伯までお越しいただきまして、心より歓迎いたします。

佐伯地域は急速に少子高齢化が進行し、じわじわと地域の活力を低下させています。支所、地域のコミュニティ組織、町内会・自治会など、多くの地域の皆さんと一緒に、厳しい現状を認識し元気な地域を取り戻すための取り組みを日々模索しています。

今日の会議では、市民、地域と市行政が信頼関係を築き、地域の特性をそれぞれが認め合って連携・協力できる協働のまちづくりの仕組みについて、議論を深めていただけたらと思います。



● ふりかえり ～ 第4回・第5回会議で考えた 「活動主体の関係・担う役割」を確認しました ～

第4回会議、第5回会議で考えた、まちづくりの活動主体の関係と担う役割についてまとめた「第5回市民委員会のアウトプット」の内容を、それぞれのグループで確認しました。

● ワークショップ ～ 協働のまちづくりの仕組み ルール・活動支援策～を考えました ～

前回会議で話し合った活動主体ごとの担う役割を果たしながら、これからのまちづくりを進めていくためには、どのようなルールや方法、支援策があるとよいのか、具体的な仕組みについて話し合いました。

【Aグループ：若い世代（30代、40代、50代、子ども）がまちづくりに関わる仕組みを考える！！】

人材育成のためには、まずは人材発掘。人材発掘のためにはワクワク、楽しいような「人が集まる場」づくりが大切です。地域、行政、学校、NPOや企業が連携して、場づくり ⇒ イベント開催 ⇒ その中で人材発掘 ⇒ 見つけた人を人材育成 ⇒ 場づくり・・・、このサイクルを“廿日市でんでん虫計画”としました。



【Bグループ：「地区」「地域」「市域」のまちづくりの進め方 全体がつながる仕組みを話し合おう！！】

「地区」では市民センターを中心に情報が行き来すること、「地域」ではテーマごとに集まって円卓会議をはじめること、「市域」では地域がつながり、行政がつながることそれぞれの地域のレベルアップを図ることが必要です。

【Cグループ：市民センターにまちづくりクラブをつくらう】

話し合いの場の名称を「プラットフォーム」から「まちづくりクラブ」に変えて、どんな組織（団体）が集まるかを考えてみました。市民センターに集まった組織（団体）で事務局をつくり、その組織の中でコーディネーターや地域の物知りの方を人選し活躍してもらう形を考えました。市民だけではなく支所や市役所の職員とも太いパイプでつながっていくことも必要です。



【Dグループ：市民の力（巻き込みたい人）と市民活動者の活性化】

活動をしていない人、市民活動やボランティア活動をしている人たちを地域（地区）に巻き込んで、新しいまちづくりを進めていけるとよいと思います。地域と市民活動団体がつながるには、ニーズの把握とマッチングが必要、このことによってお互いが補完、あるいは相乗効果をあげることができるとよいと思います。



【まとめ：総合ファシリテーター】

魅力的なキャッチフレーズや、「まちづくりクラブ」というやさしいネーミング、分かりやすく力強い仕組みが提案されました。また回を重ねて、各テーマの共通する部分、全体としての取り組みが見えやすくなったように思います。

ファシリテーターが参加するワークショップは今回で終わります。どうもありがとうございました。

● 講評

蛭江アドバイザー



「まちづくりはみんなが参加」の発想はやめた方がよいと思います。人の関心はさまざまです。関心のあるものに参加してもらえよう多様な活動の機会と場所を用意してそれを積み重ねる。そのことで、相乗効果が上がり、総体として地域力が高まり、まちの活性化につながると考えてみてはどうでしょうか。

吉川アドバイザー



廿日市には「円卓会議」という仕組みが長らくあることを知りました。この円卓会議が全域につながっていく上では「協力」と「競争」の両方が大事です。県内他市の「地域振興会」の事例も参考に、今後の展開を考えてみるとよいと思います。

● 参加者の感想 今日の会議の満足度は？（10点満点中）

- 10点：発表が分かりやすく理解が深まりました。つながりの重要性が確認でき、「これなら取り組める」と確信しました。
- 8点：あと2点はこれからの期待度！！
- 7点：いろいろテーマがあって欲張りすぎたかな。考え方の違いも分かり、今後どうまとまるのに関心を持ちました。
- 5点：うーん…勉強不足。目標の答えに到達せず。

（仮称）まちづくり基本条例検討市民委員会 第6回プラスワン会議を開催しました

「まちづくりの活動主体の関係・担う役割」について、条例の素案として文章化するために、11月25日（木）午後7時から市役所7階会議室で、プラスワン会議を行いました。「第5回市民委員会のアウトプット」としてグループごとに確認した文章を束ね、議論の背景を考えながら文章を整える作業に、市民委員と職員が知恵を絞りました。

市民委員会での具体的な事例を挙げた話し合いからどのように理論がまとまっていくのか、条例素案になるまでの過程を共有できた有意義な会議となりました。



市民委員会を開催します

どなたでも自由に傍聴できますのでお気軽にお越しください。

第7回会議では

「協働のまちづくりの仕組み～ルール・活動支援策」について第6回会議の内容をもとに議論を深めます。

12月6日（月）午後7時～9時 廿日市市役所7階会議室